

阪南市の秋祭り

毎年、盆を過ぎ秋の気配が濃くなる9月中旬になると、祭囃子を奏でる笛や太鼓の練習の音で、阪南市内は一気に祭りムードが高まります。10月第2日曜日の早朝には、揃いの法被に身を包んだ曳き手たちの、威勢のよい「そーりゃ！」の掛け声とともに、20台の「地車（やぐら）」が一斉に町に繰り出し、2日間に渡る、勇壮な祭りが始まります。

「地車（やぐら）」とは、大きな二輪のコマ・大屋根・小屋根を持ち、小屋根の下には直径1.5mの大きな太鼓がついており、笛の音に合わせて叩かれます。



地車（やぐら）の発生時期については、詳しくはわかっていませんが、四輪の「だんじり」では山道や細い道を曳行するのに適さないため、このような形に変貌を遂げ、江戸時代から始まり、約270年の歴史を持つと言われていました。

地車（やぐら）も往古には40～50台あったと言われていましたが、大正期には20台余りになり、更に、昭和30年代には18台へと減少していきました。

しかし、昭和62年以降、祭礼への市民意識の高まりとともに、各地区の地車が順次大修復・新調され、現在に至っては前述のとおり20台となっています。

祭礼のクライマックスは国の重要文化財でもある波太神社への宮入りで、一気に七段の石段を豪快に駆け上がる宮上がり（みやあがり）を見ようと、朝早くから溢れんばかりの見物客で賑わいます。

また、路地を練り歩く際には、地車前部の台場と呼ばれるところに乗った音頭取りの音頭に合わせて、前後左右に巨体を揺らします。

勇壮さばかりが目立ちがちな地車ですが、周囲に



は戦国時代の合戦等を描いた、繊細な彫刻が施され、夜には屋根周りの提灯に灯が入り、情緒あふれる風情をかもします。

この秋祭りに先立ち、毎年10月第1日曜日には「やぐらパレード」が開催されます。市役所前広場に市内のすべての地車20台が勢ぞろいし、2コースに分かれて威勢よく走り、また、練り歩きます。その情景は圧巻であり、ぜひご覧いただきたいものです。

本市の秋祭り、やぐらパレードは、各地区の地車（やぐら）保存会、祭礼評議会等による市民主導でおこなわれており、年々勢いが盛んになってきております。



● お問い合わせ先 ●

阪南市市民部商工観光課

TEL：072-471-5678（内線 2457）

FAX：072-473-3504

E-mail：syoukou@city.hannan.lg.jp